

# 会 議 録

## 1 会議名

平成 29 年度第 6 回諏訪区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### (1) 自主的審議について（公開）

① 上越市の移住施策にかかる取組と制度

② 質疑応答・意見交換

## 3 開催日時

平成 29 年 12 月 14 日（木） 午後 7 時から午後 8 時 40 分まで

## 4 開催場所

諏訪地区公民館 集会室

## 5 傍聴人の数

2 人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・ 委 員：石黒太一、内山恵悟、内山松男、川上奈津子、川上久雄（副会長）  
武田輝夫、西嶋明子、星野一巳（会長）、松縄節子、山岸 愛  
山岸一之 （欠席 1 人）

・ 自治・地域振興課：渡来中山間地域振興係長、高橋主事

・ 事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、田中主事

## 8 発言の内容 （要旨）

### 【野口係長】

・ 会議の開会を宣言

・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

**【星野会長】**

- ・会議録の確認：内山恵悟委員に依頼

議題「(1) 自主的審議について」の「①上越市の移住施策にかかる取組と制度」に入る。

早速、自治・地域振興課の中山間地域振興係に説明を求める。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

- ・挨拶

諏訪区の自主的審議のテーマである移住促進について、今後の取組を進めるうえで、市の取組状況について説明させていただく。

- ・資料No.1～No.7 により説明

**【星野会長】**

今の説明に質疑を求めるが、多くあるので、まずは資料No.1 についての質疑を求める。

**【武田委員】**

移住相談者の件数は資料にあるが、上越市は県の中でどの程度の件数なのか教えて欲しい。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

残念ながら集計が出ていない。

**【星野会長】**

「ふるさと回帰支援センター」の移住希望ランキングで、2009年17位だったが、2016年では8位になっている。かなり力を入れてきたということになるのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

2013年までは12位だった。2014年以降から年によって波はあるが、2016年には8位ということである。県が音頭を取って、市町村の皆さんと一緒にやろうということで、PRに力を入れていただいていることが大きいのかなと思っている。

**【星野会長】**

上越市では、東京での相談会等は何年前くらいから力を入れているのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

上越市が東京で説明会を開催し始めたのは、市町村合併以降の平成19年に上越市

ふるさと暮らし支援センターを立ち上げてからになる。最初は観光や市のPRの側面が強かったが、移住に力を入れて回数が増えてきたのは、ここ3年くらいだと思う。勿論、その前までも大規模なイベントは毎年出ていたし、小規模でも上越市主催のイベント等も実施していたが、ここ3年くらいはいろいろなものに積極的に顔を出すようになった。

**【星野会長】**

その中で、上越市に対する好感度や感触はどうか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

正直、「新潟県上越市」と言って、反応する人は、ほとんどUターンの方だけである。妙高市や糸魚川市の出身で、なかなか地元就職先がないので、上越市はどうかと思っているという人が多い。

上越市そのものは知らなくても、北陸新幹線の上越妙高駅が開業したことは非常に大きい。どうしても湯沢エリアと間違われる人も多い中で、上越妙高駅の地域なのだと話をする「あ〜、最近できた駅よね」と、そこをきっかけに話が広がる場合も多い。

**【星野会長】**

次に、資料No.2について質疑を求める。

**【武田委員】**

右側の上越市の移住体験施設で、建物をそのまま使えば一番よいのだが、修繕などの資金は区が出しているのか。あるいは、何割か負担してくれるような補助金のようなものがあるのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

施設によって事情が違うが、合併前からあったものに関しては、昔の町村で改修資金を出しているものもある。最近では、民間の資金を取ってきて施設に充てて改修した例もある。

**【武田委員】**

民間の資金というのは何か。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

一般財団法人地域活性化センターという団体で、宝くじを財源にしている。そこ

では、施設の改修などを行う際に補助金を出すという事業をやっている。これを活用する場合は、市町村を介して補助金を出す仕組みになっているので、市が申請を出し、お金をもらってきて、団体に出すという迂回的な支援をさせていただいた。

**【武田委員】**

それは100パーセントなのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

100パーセントである。ただし金額は200万円が上限で、あまり高額ではない。また、全く改修せずに運営されているところもあり、団体が光熱水費と電気料金の基本料金を負担している。利用者から、利用料金をいただき、それで運営費を賄っているという仕組みでの経営がほとんどだと思う。

**【星野会長】**

ふるさと暮らしセミナーの開催ということで、吉川区から2組の方がゲストとして行かれているが、この方々は昔から住んでいたのか、それとも移住されてきたのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

移住されてきた方たちで、私どもは「先輩移住者」と呼んでいる。同じ立場での人から直接話されたほうが、PRになるということで、2組とも30代のご夫婦だが、来ていただいた。

**【星野会長】**

この方たちは、実際の家屋や仕事はどうなっているのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

しぎたに かわだに  
嶋谷さんは、吉川区の川谷という上越市の中でも1番条件が厳しいかなと思われる中山間地に住んでいる。この夫婦は移住体験ツアーで知り合い、この地で20年ぶりに結婚式を挙げられ、農業で生計を立てている。

谷内さんご夫妻は、川谷の少し下の集落のおおがの大賀というところに住んでいる。夫は酒造りをされたいということで、よしかわ杜氏の郷さとで働いている。妻は東京で洋服のパタンナーの仕事をされていた。新幹線に乗れば3時間足らずで東京に行けるからと、東京での仕事を移住しても続けておられる。

**【星野会長】**

次に資料No.3 について質疑を求める。

「7 住宅」で「空き家情報バンク制度」というのは、市内全体の空き家バンクなのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

今、空き家がどんどん増えてきている中で、それをどうしていこうかというのが市全体の課題となっている。市は、毎月1回、第2火曜日に相談会を開催している。家主さんから空き家を活用したいが、どうしたらよいかという相談に、公益社団法人新潟県宅地建物取引業協会にもご協力いただきながら相談に応じ、市のホームページで空き家を紹介して、買いたい、借りたいという人を探そうという仕組みが「空き家情報バンク制度」になっている。

登録物件も少しずつ増えてきており、実際に何軒か買われた方もおり、実績も出てきている。市も、県外市外から物件を購入していただき、市内に住んでいただくマッチングを進めていきたいと思っている。

**【星野会長】**

何軒くらい登録されているのか。

**【自治・地域振興課：高橋主事】**

12、3軒である。今まで成約があったのが3軒で、今、賃貸されているのが1軒になる。

**【山岸愛委員】**

この資料No.3 の内容は、この冊子のかたちでどこかで見られるのか。今回の説明のためだけに作られたのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

この冊子のかたちだと、東京での移住相談会等のイベントの際に相談を受けたときにお配りしている。データだと市のホームページのトップページの右下に「移住をお考えの方へ」というバナーがあるので、そこをクリックすると見られる。

**【山岸愛委員】**

私もこういうのを見てから来ればよかったのだが、何も見ずに東京から帰ってきてしまった。いろいろサービスがあるのを、今初めて知った。

**【星野会長】**

こういう資料があるということも、我々の中々知らない。私たちも、こういう機会がなければ、市のホームページで検索してまで見ないのが現状だ。

【自治・地域振興課：渡来係長】

私どもも、PR 不足は反省しなければいけないのだが、どうしても市外への PR を一生懸命やっているのに、市民の皆さんへの周知が行き届かない状況だ。

【山岸愛委員】

Uターンは多いが、Iターンは上越市にはハードルが高いとは思う。私もUターンで一昨年帰ってきたが、帰ってくる時にUターンというよりも、家に帰ってくるというイメージだったので、あまり情報を知る必要性を感じなかったし、知る術<sup>すべ</sup>を知らなかった。調べなかったのは自分のせいなのだが、ハローワークに行って、新潟県の求人を見て漠然と帰って来てしまった。この資料を見ると、もう少し手段はあったのだと思う。例えば、帰ると言ったときに、こちらに住んでいる家族なり友人なりが「市のホームページを見るといいよ」と言ってくれれば、非常に心強いとか、拠り所があるのだなということに、今、気づいた。この一覧を2年前に欲しかったと思う。

【自治・地域振興課：渡来係長】

貴重なご意見をいただいた。確かにこちらにお住まいの方が「こういうのもあるし、戻ってきたら」というきっかけになるのもUターンへの道筋だと思う。

【山岸愛委員】

いろいろ充実しているなと思った。何もなくて「帰って来い」と言われても躊躇<sup>ちゅうちよ</sup>するが、このように見られる情報があればUターンの人も気に留めると思う。

【内山松男委員】

空き家バンクの件だが、土地の情報はないのか。

【自治・地域振興課：渡来係長】

土地はない。

【内山松男委員】

あと、お金が掛かるが、コマーシャルとかはしないのか。

【自治・地域振興課：渡来係長】

今は「<sup>ターンス</sup>TURN'S」や「田舎暮らし」という田舎暮らしに関心を持っている若い人が読

む、専門雑誌がたくさん出ている。その本の後ろに無料で載せられるコーナーがあるものもあるので、上越市で移住体験ツアーをやっている等の情報を積極的に載せてはいるが、今後のPR充実の参考にさせていただく。

**【星野会長】**

「移住促進諏訪の会」では、地域活動支援事業を活用して、10月26日に須坂市と信濃町に出向き、視察研修に行ってきた。須坂市では市が主導して、子育てに力を入れているのをPRしていて、1人親の子どもへの支援は、このようなものがあるので、是非来てくださいということであった。この資料を見ると、上越市でもかなりやっていると思うのだが、特に目玉にしているところはあるのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

私どもが移住者の対象年齢として設定しているのは、20代から40代の子育て世代である。東京の方に「上越市では待機児童はゼロだ」ということを伝えると、びっくりされる。まず、そういうところを糸口にして、子育てしやすいまちなのだというふうに話を広げていくと、関心を持ってもらえる方もいる。20代から40代をターゲット層にする中で、市が主催している年に2回のセミナーも「子育て」や「家」をテーマにするなど、若い世代が関心を持ちそうなテーマを毎回設定して、そこにゲストの方に来ていただき話をさせていただいている。

**【星野会長】**

次に資料No.4について質疑を求める。

**【武田委員】**

確認だが「集落づくり推進員を活用した集落支援」17,756千円、「地域おこし協力隊を活用した集落支援」21,291千円とあるが、これは人件費なのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

ほとんどそうである。

**【星野会長】**

この地域おこし協力隊の任期はあるのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

最長3年間となっている。いろいろなアイデアを持った若者が東京から来てもらっている。集落に想いを持って来てもらっている以上、長く定住してもらいたいと

いう想いが、集落の皆さんには強くある。私どもも3年間で「さようなら」ではなく、3年間来てもらった後に、同じ集落で就職先や収入源を見つけて住んでもらい、地域としても何か世話して欲しいと思う。募集にあたり就職先など収入が見込めるところには、予め声を掛け、上手に巻き込みながら進めていくことになる。これが若い人に声を掛けるときのPRになり、任期は3年間だが、3年で終わりということは考えていない。

**【星野会長】**

地域おこし協力隊にスペイン人の方が着任されたが、「生活が面白くて仕方がない、ワクワクされている」とのことだが、何が面白いのか、また何が気に入ったのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

1つは人、もう1つは環境である。スペイン人のエミリオさんは4人家族で中山間に暮らしている。「地域の人たちが温かいし、大好き」と言うのである。地域の皆さんに温かく迎え入れてもらっていて、困ったことがあれば助けてくれる。集落の飲み会があれば「エミリオ、おいでよ」と必ず声を掛けてくれる。

それと、農業がやりたくて来たところがあるので、自分が思う存分やりたかった有機農業がやれたことや「上手くいくかは分からないけど、やってみたらいいよ」と集落の方が声掛けしてくれる中で、好きな農業ができていところが凄く楽しいようである。

**【内山松男委員】**

言葉は通じるのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

漢字は書けないが、読み書きはできるし、日本語を喋るのは大丈夫である。

**【星野会長】**

新潟県上越市に来たきっかけは何か。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

エミリオさん夫妻は、スペインで結婚された後、妻の実家の名古屋に来られた。名古屋という大都会の環境が中々合わなくて、田舎で農業ができるところをずっと探していた。その時に、たまたま上越市で地域おこし協力隊を募集していることを知り、思い切って応募したという流れで来た。全くの偶然と言えば偶然である。い



くつか問い合わせをしていたようだが、言葉の問題など、マッチングが上手くいかなかったところがいくつかあった中で、受入れてくれたのが上越市だったので、思い切って来たという話を聞いた。

**【星野会長】**

担当者の熱意や、人柄に惹かれてきたということはないのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

最終的に移住が上手くいくかどうかは、受け入れてくれる集落の人の温かい気持ちや、熱意なのだと思う。私どもはきっかけや通過点であって、今の状況があるのは集落の人が環境を整えてくださったからだと思う。

**【石黒委員】**

「集落カルテの更新」とあるが、どのような活用方法があるのか。また、それを見たい人は誰でも見れるのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

基本的には、各総合事務所に集落づくり推進員がいて、総合事務所の中でカルテを作っている。これを使って、町内会の皆さんと話をしている区もあるので、門外不出というようなものではない。人口ピラミッドも町内会ごとに書いてあるので、「若い世代がいないよね。これからどうしていこうか」という話のきっかけにしていく活用などもしていて、色々なところで使っていただければよいと思っている。

**【星野会長】**

次に資料No.5について質疑を求める。

実際に、紹介して移り住んだという実績はあるのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

柿崎区さるげの猿毛集落に1人が入られた。大島区では大平おおだいら集落に今年1人来られた方がいる。この資料をホームページに載せているが、特に去年は、たくさんお電話をいただいた。今年は問合せの電話は少ないが、問合せまでいかななくても、見ていただいている回数は多いと思う。

**【松縄委員】**

これを見ていると、大島区にがみの仁上集落や柿崎区さるげの猿毛集落は子ども会があるが、この先どうなるのかと思う。大島区ふじおの藤尾集落は7世帯で16人とあるが、下手した

らなくなってしまう。これを見て切なくなり、諏訪は、まだましなんだと思う。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

最近の取組としては、集落にお住まいの皆さんの気持ちに寄り添うかたちで「集落<sup>しま</sup>終い」という取組もお手伝いをさせていただいている。もしかして住民がゼロになった場合に、皆で守ってきた神社はその後どうになってしまうのかというのは大きい。大元の神社にお戻しするとかできるのかという相談に乗ったり、少しずつたたんでいくところの支援もでてきているところである。

**【星野会長】**

次に資料No.6、No.7 について質疑を求める。

**【山岸一之委員】**

ネスパスは7、8年前に行ったことがあるが、当時は県内の市町村によってもバラつきがあった。物産を多く出しているところもあったが、上越市は少なかったということを覚えているが、今はどうなのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

確認してみる。

**【松縄委員】**

私は、ネスパスが好きで、急いで東京に行くときに何も持たずに行って、ここで購入する。採れたての枝豆もあるし、お酒も売っているので、親戚の家に行くときは手土産にするのである。また、糸魚川の火事の際も、ネスパスでは「加賀の井」のお酒は完売したそうなので、皆さん利用しているのだと思った。少し感想を言わせていただいた。

**【星野会長】**

他に全体をとおして質疑のある方はお願いします。

**【石黒委員】**

説明の中で「よそから移住してきた人が、集落のルールを無視して皆さんに馴染めなくて、これ以上受け入れたくない」という集落もあったと言うが、主なる理由は何だったのか。

**【自治・地域振興課：渡来係長】**

私どもが聞いている中では、家を買った市外の方は、永住するのではなく別荘と

して使うつもりだったようで、町内の人に何も挨拶もしていなかったようである。突然明かりがついていて、誰か来たと思うと、色々な人に鍵を貸し出していて、毎週来る人が違ったという例があったようである。

もう1つの例では、その方は、自分1人の静かな生活をしたかったようで、集落の交流をあまり希望されなかったようである。集落の行事や共同作業にも顔を出さず、気付いたらいなくなっていたようである。

中々集落に馴染めなかったので、集落の方も風紀を乱しされてしまったという印象が残っている。そういう集落の方は、移住と言ってもあまりよい顔をされない方が多い。

#### 【星野会長】

時間になったので、また何か質問等があれば、事務局を通じてしていただきたい。これで、自主的審議については終了する。

自治・地域振興課に感謝する。

その他、次回開催日について事務局に説明を求める。

#### 【野口係長】

- ・次回開催日について説明

#### — 日程調整 —

#### 【星野会長】

- ・次回の協議会：1月22日（月）午後6時30分から 諏訪地区公民館
- ・会議の閉会を宣言

#### 9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

#### 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。